

令和2年度 学校自己評価書 (川南町立国光原中学校)

項目	評価指標 及び 具体的目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等
			項目	総合	
I 町民総ぐるみによる教育の推進	1 学校、家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。 ・ 授業や学校行事等における地域人財(材)との積極的な連携 ・ 学校間連携の推進 関係機関等との連携 ・ 学校運営協議会の助言を生かした教育の充実	・ 年間計画を作成し、地域学校協働活動推進委員との積極的な連携を図る。 ・ 校内人財(材)バンクの整備を図る。 ・ 小学校との連携及び県立農業大学校との連携を図る。 ・ 学校運営協議会の充実とその活用を図る。	3.9		○1年総合(地域学習)や2年総合(職場体験学習)、3年総合(地域参画型面接)等で地域人財を積極的に活用した学習ができた。 ○3校合同授業研究会やあいさつ運動、クリーン作戦で小学校と連携した取組を行った。県立農業大学校の協力を得て、農業体験やさつまいもの販売を行い、地域の方々と交流することができた。軽トラ市では、学校地域協働活動推進委員の助言を得て、生徒が早朝ボランティアに参加した。 ●学校運営協議会委員には様々な形で学校に関わっていただいているが、学校、家庭、地域が一体となって取り組む教育の推進にあたり、学校運営協議会の役割を明確にする必要がある。
	2 家庭や地域の教育力の向上に努める。 ・ PTA活動の充実 ・ 魅力ある家庭教育学級の実施 ・ 参観日、学級懇談の充実	・ PTA活動への教師の参加を促す。 ・ 魅力ある家庭教育学級を企画立案し、家庭の教育力を高める活動を図る。 ・ 参観日は、保護者も参加する授業の工夫と学級懇談会等の充実を図る。	3.6	3.8	○新型コロナウイルス感染症の関係でPTA活動の自粛が続いたが、保護者の協力を得て、体育大会・文化祭を半日開催を思わせない充実したものとすることができた。 ○参観日を4回計画して、2回実施できた。学級懇談や説明会を通して、情報の共有ができた。 ●家庭教育学級で外部講師を招いた研修会等を企画したが中止となり、ほとんど活動ができなかった。
	3 開かれた学校づくりを推進する。 ・ 積極的な情報(学年学校便り、ホームページ等)の発信 ・ オープンスクールの実施 ・ 学校図書館の地域開放、受入体制の充実	・ 学級・学年通信の発行並びに、学校便りの定期的な発行と地域への回覧、ホームページの更新、内容充実を図る。 ・ オープンスクールの体制整備を図る。 ・ 読書好きな生徒を増やすため、図書館事務との連携を積極的に図る。	3.9	3.9	○学級通信やホームページの定期的な発行・更新を行うことができた。 ●オープンスクールは、新型コロナウイルス感染症対策のため、中止した。 ○図書館事務との連携により、読書推進校の選ぶベストブックが紹介されるなど掲示物が充実し、読書活動の推進が図られた。
II 生きる基盤を育む教育の推進	1 確かな学力を育む教育を推進する。 ・ 主体的・対話的で深い学びを実現させる授業づくり ・ 学力テスト等を利用した学力向上のための取組の充実 ・ 宮崎大学との連携	・ 学力向上のための小テストや単元テストの実施による繰り返し学習の徹底と見届け等を充実する。 ・ 指導方法の工夫改善のための全教師の研究授業を積極的に実施する。	3.7		○主題研究では、発問に着目した研究を行い、授業改善に努めた。 ○宮崎大学との連携授業を年2回実施するなど、授業力向上に向けて取り組んだ。 ●各教科が学力向上に向けた粘り強い取組を行っているが、継続した取組やさらなる工夫が必要である。
	2 豊かな心を育む教育を推進する。 ・ 自己実現を図る生徒指導の充実(いじめ防止基本方針に基づいた取組の充実) ・ 道徳教育の充実	・ いじめ・不登校対策委員会の工夫と充実を図る。 ・ 生徒指導の三機能を生かした積極的な生徒指導の展開を図る。 ・ 教育活動を通じた道徳教育を推進する。 ・ 立腰及び場に応じたあいさつ、会釈を励行する。 ・ 師弟同行による無言清掃を充実させる。	3.8	3.8	○道徳教育の授業を計画的に実施している。学校教育アンケートを毎月実施し、いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。 ○人権擁護委員を講師に招いて人権学習集会を実施し、人権やいじめ・差別防止について学んだ。 ●いじめ・不登校対策委員会を毎月実施し、共通理解・共通実践を行っているが、不登校傾向生徒の解消には至っていない。 ○清掃前の整理をやめ、清掃場所にいたらそのまま清掃を始めるように手順を変更した。活動時間を確保し、無言清掃にもしっかりと取り組んでいる。
	3 健やかな体を育む教育を推進する。 ・ 保健指導の充実と体力向上プランの推進 ・ 弁当の日、食育の推進 ・ 部活動の活性化	・ 日常的な保健指導と体力や運動技能の分析による、計画的な取組を行う。 ・ 弁当の日(2回)の工夫改善を行う。 ・ 全職員担当制による部活動の積極的な推進を行う。	3.8	3.8	○新型コロナウイルス感染症対策として、登校時の検温や消毒、マスクの着用、手洗い・うがいの励行、教室の換気、手指の消毒、机椅子の消毒等を継続して行った。 ●メディアコントロール週間を設定し、メディアに向かう時間を制限することで健やかな体づくりにつなげようとしているが、各家庭のルールづくりに課題があり、さらなる改善を促すなど継続した取組が必要である。 ○給食感謝集会で栄養士による講演を行い、適切な量をバランスよく食べるよう促し、栄養教諭のアドバイスを参考にして生徒が計画的かつ主体的に弁当作りに取り組めるようにした。 ○部活動指導に全職員で取り組んだ。
	4 共生社会を目指す特別支援教育を推進する。 ・ 個に応じた特別支援教育の充実	・ 特別支援教育の研修充実と保護者との積極的な連携を図る。 ・ 交流学習の充実を図る。	3.8	3.8	○夏季研修で子どもの人権や特性について研修を行い、個に応じた指導の在り方を学ぶことができた。
	5 人権が尊重される社会を目指す教育を推進する。 ・ 思いやりのある言葉遣いの励行と人権教育の推進	・ 教職員の人権感覚を身に付ける研修。 ・ 毎週水曜日に生徒理解の場を設ける。	3.8	3.8	○毎週水曜日の職朝で生徒理解の場を設け、各学級の生徒の状況等について共通理解を図り、日々の指導に生かしている。 ○夏季研修で子どもの人権や特性について研修を行い、人権感覚を磨くことができた。
III 育の立推した社会人、職業	1 ふるさと川南に学び、誇りや愛着を育む教育を推進する。 ・ 川南の宝を活用したふるさと学習の推進 ・ 川南町歌、川南音頭等による町民意識の醸成	・ Team Kawaminami学びのネットワークの積極的な活用を図る。 ・ 体育大会における川南音頭活用のための保存会との連携と学校行事における川南町歌の斉唱を積極的に行う。	3.8	3.8	○1年総合「地域学習」では、地域人財を活用し、ふるさと川南についてしっかり学ぶことができた。 ○体育大会では、川南音頭を保存会と連携して行った。今年度より法被を作成し、背中に「川南クオリティー」を背負わせることで町民意識の醸成を図った。
	2 地域の課題解決に参画する意識や態度を育む教育を推進する。 ・ ボランティア活動等地域に貢献する活動への参画 ・ 小中合同活動の推進 ・ 生徒の主体的な活動を促す生徒会活動の充実	・ ボランティア活動への参加を促し、生徒の手による花壇の管理や地域の清掃活動を推進する。 ・ ファミリー活動の工夫と推進を図り、小中合同クリーン作戦を活性化させる。	3.9	3.8	○花の栽培ボランティアに多くの生徒が参加し、種まきや鉢上げ、水やり、草抜き等の活動を行った。 ○小中合同で地域の清掃活動(クリーン作戦)を行い、地域の美化に貢献した。 ○生徒会が国中キャラクターを募集し、「ココロ」を選出するなど生徒による主体的な取組が見られた。

人を育む教育	3 キャリア教育を推進する。 ・ 社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の推進計画作成と実践 ・ 職場体験学習、奉仕体験活動の充実 ・ 地域人財(材)によるドリカム(職業)講話の実施	・ 小中間、各学年間の系統的・計画的なキャリア教育の推進計画の作成と実践を行う。 ・ 体験活動の積極的な推進(職場体験、奉仕体験等)を図る。	3.8	○1年生では「地域を知る」学習を行い、2年生では「職場体験を中心として職業について学ぶ」学習、3年生で「自分の夢を実現する」ための学習を行った。 ●新型コロナウイルス感染症の関係で、ドリカム講話(年2回)を実施することができなかった。
IV 魅力ある教育を支える体制や環境の整備、充実	1 教職員の資質向上に努める。 ・ OJTの積極的な推進 ・ 指導力向上のための研修の充実 ・ コンプライアンスチェック、意識の高揚	・ メンターチームの効果的な活用を図る。 ・ 通知文、新聞記事を活用して全職員への周知徹底を図る。 ・ コンプライアンスチェック、研修を推進する。	3.3	○通知文、新聞記事を活用して、コンプライアンス意識の向上に取り組んだ。職員研修では、具体的な事例をもとにした研修を企画し、共通理解を図った。 ○宮崎大学との連携授業を年2回実施するなど、授業力向上に向けて授業改善に取り組んだ。 ●新型コロナウイルス感染症への対応等に追われ、校外研修も激減し、研修の機会が減った。
	2 学校における安全、安心の確保に努める。 ・ 自ら命を守る安全教育の推進(ヘルメット、たすき) ・ 安全に配慮した施設・設備の管理 ・ 危機管理マニュアルの周知と緊急時の対応整備	・ 生徒の交通安全に対する意識を高める。(ヘルメット、反射たすきの着用) ・ 的確な危機予測をし、万が一の危機対応について最小のダメージコントロールができる能力をもてるようにする。 ・ 危機管理マニュアルの徹底を図る。	3.7	3.6 ○交通安全教室を年2回実施し、1回は高鍋警察署より講師を招いて、自転車による事故の防止教室を行った。 ○校内の安全点検を定期的に行い、川南町技術員の方と連携して修理等を行った。 ●スポーツ時のけがへの対応について、報告・連絡・相談を迅速に行うよう再確認する場面があった。
	3 学校の教育環境の整備、充実に努める。 ・ ICT機器の積極的な活用と研修の充実 ・ 施設設備等必要事項の町教育課への確実な報告・連絡・相談	・ ICT機器利用に関する研修の充実を図る。 ・ 教育設備の状況について連携を図る。	3.7	○臨時休業期間を活用して、施設設備の点検や整備等を行うことができた。 ○ICT機器利用に関する研修を行い、困ったときの相談体制もできており、積極的に活用できた。 ●次年度より生徒1人1人にタブレット端末が導入されるので、職員研修でも取り組む計画である。ICT機器の利用について、これまで以上に研修の機会を設定し、共通理解・共通実践を進めていく必要がある。
V く挑生涯の推進 り戦涯を の推進通 でき進じ る社会 社会学 学びづ び	1 自ら学び、地域に貢献する生涯学習の基礎づくり ・ コミュニティスクールとしての在り方を追求し、家庭・地域と一体となった、将来の川南を担う人づくりを推進する。	・ ドリカム講話や地域人財を活用した学習等を通して、自ら学び、地域に貢献する生き方の基礎を培う。	3.7	3.7 ○1年「地域学習」や2年「職場体験学習」、3年「地域参画型面接」等の地域人財を活用した学習で、自ら学び、地域に貢献する生き方の基礎を培うことができた。 ○人財の確保や事業所開拓等の際に、学校地域協働活動推進委員を頼るところが大きく、大変助けていただいた。